

---

# 鏡の中の迷宮

美月椎奈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鏡の中の迷宮

### 【Nコード】

N5363F

### 【作者名】

美月椎奈

### 【あらすじ】

俺の名前は西野来希。ある日、親友の悠斗に誘われて、学校で肝試しをすることになった。でもこれが、俺の人生を一生、狂わせることになるなんて……





俺は今、夜の学校にいる。

カチツカチツカチツカチツ

時計の針の音が妙にざわついてくるさ。

時間は、9時5分。

それにしても、悠斗遅いな…。

『……………イ…デ…』

…あれ…?…今、誰かの声が…?

『コツチへオイデ…』

女の人のかすれた声。

「だ…誰だっ!?!?!?」

訳も分からない恐怖で声が裏返る。

恐る恐る後ろに振り返ってみても……………誰もいない。

『オイデ…コツチニ』

声は、どう考えても旧校舎の方から聞こえて来る。

「お〜い!来希い!こっちに来いよ〜!」

「うわ！？…な、なんだよ悠斗か……」

驚かせるなよ！

でも、声に出したはずのそれは、喉が乾いて言葉にもなっていないかった。

「ごめん！家抜け出すのに手こずって遅くなった！」

「あっそ」

俺は、冷たくそう言った。

「なんだよ、冷てーな！たかが10分だろお！遅れたのは悪かったけどさ、そう怒んなよ〜！」

くそ〜！お前が遅れた分、どんだけ俺が怖い思いをしたと思ってやがんだ〜！

「で、学校のどこに行くの…?」

「は？何言ってるの。旧校舎に決まってるだろ！」

当然のように悠斗が言う。

この時俺は、一番恐れていた答えが返ってきたような気がした。

「…あのさ、いくらなんでも旧校舎はやめとこつぜ…」

さっきの声だつて気になるし……。

「何、お前怖じ気づいてんの……?!」

ムカッ!

ンだど〜お!!??

「そんなことあるわけねえだろ!!怖い訳ねえよ!!」

「言ったな!そんじゃ、俺に付いて来い」

あ…。

どうすんだよ…!あの声の主が襲って来たら!

でも…。はあ…。今更気付いてもじゃあねえか…。

「…はいはい…」

俺は嫌々ながら返事を返した。

キィィィ……

不気味な音と共に旧校舎の扉を開ける。

中は暗くて、空気が重い。

「い……行くぞ……！」

さすがの悠斗も怖じ気づくくらいだ。

「じゃ、俺が先に入るから」

俺は、冷静にそう言って、旧校舎の中に入った。

ギシ…ギシ…ミシ…

一歩踏むごとに聞こえる音が、この校舎の古さを物語っている。

「お…おい、待てよ…！俺も…い…行く…！」

取り残された悠斗が、慌てて俺のあとを付いて来た。

まったく…！怖じ気づいてんのはどっちだよ…！

『オイデ…』

その時、またあの女の人の声が聞こえた。

「だっ…、誰だ！？何処にいる！？」

俺は恐怖のあまり、大声で怒鳴ってしまった。

「どどどどどつしたんだよ！？なな何かあんのか…！？」

悠斗は、明らかに動揺している。



『コツチ…オイデ…』

また、聞こえた。

その声を聞いたたびに意識が遠のいていくような…そんな感じがする。

「ら…来希…？お前、本当におかしいぞ…」

俺を心配する悠斗の声も耳に入らない。

『ソウ…コツチ…』

俺はただ、不気味な声に操られたように、言われた通り動いている。

『…オイデ…オイデ…』

声に導かれるように進んで行くと、目の前に大きな鏡が現れた。

『ココヨ…ワタシハ、ココ……』

鏡の中に誰がいる。

女の子だ。だいたい年は同じくらいだろうか…？

長い黒の髪と白いワンピース。

そして、美しい整った顔。

俺は、その子に見入ってしまった。

「や…やめろ！来希！いくな！戻って来い！」

必死に叫ぶ悠斗の声。

その声を聞いて、ハッと我にかえる。

…でも、もう遅い。

俺は、鏡の中の少女に腕を掴まれていた。

「い…イヤだああああ！た…助けてっ！！！！！」

叫んでも、俺の身体は、段々と鏡の中に引きずり込まれてしまう。

「らっ…来希いいい！い…いくなよ！絶対にいくなっ！」

悠斗が必死になって、俺を反対側へ持つていこうとしている。

それでも、俺の身体は引きずられて行く一方だ。

『ムダヨ…。ダッテモウアナタハ、カガミノナカダモノ…』

そして気付いたらもう俺の身体は鏡の中にあつた…。

いくら鏡を叩いても外には出られない。

「イヤだアアアアアアアアアア！！！」

また叫んでも、俺の悲鳴が外に届くことはなかった。

閉じ込められたらもう

モドレナイ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5363f/>

---

鏡の中の迷宮

2010年10月17日04時34分発行